

令和7年度第2回堺市博物館協議会会議録

(司会)

- ・出席委員数開会条件成立報告
- ・傍聴者数（0名）報告
- ・資料確認

【館長挨拶】

- ・堺市博物館は空調更新工事のために長期休館中。そのため、今回はみはら歴史博物館で開催

○協議会の目的

- ・堺市博物館の調査研究や資料の収集・保存・管理・展示、広報・普及等の活動全般について、委員の先生方から意見を賜る。

○本年度の入館者数と展示の概況

○前回協議会の議論について

- ・収蔵品のデータベース、デジタル化の推進
- ・小学校への出前授業
- ・アウトリーチによるシリーズ型講座
- ・他施設（図書館等）での収蔵品展示
- ・再開時の展示の準備

○再開館に向けた活動

- ・4/1～5 博物館 再始動－サンクス・イベント－
- ・企画展「昭和の記憶」
- ・常設展示（近世コーナー）の刷新
- ・職員一体での企画強化
- ・協議会で頂いたご意見を参考に活動を計画している

○出前授業の成果

○今日の議案

- ・堺市立みはら歴史博物館の常設展示について

①閉室中の特別展示室をどう活用するか

②子どもを中心に来館者を増やすにはどうするか

- ・ご意見を活かし、忌憚のないご批判を受けて改善を進めたい。

(司会)

- ・協議会委員紹介
- ・事務局職員紹介

【議事】

(禰宜田会長)

- ・議事のうち(2)案件について議論を深めたい旨周知

<事務局説明>

議事(1)報告①令和7年度事業の経過報告について

○資料1 堺市博物館入館者数

- ・1月末現在の実績で比較すると、令和7年度：125,978人
- ・令和6年度より13,657人増、5年度より19,598人増
- ・11月4日以降の休館の影響を除外し10月末の累計で比較すると、令和7年度：118,566人
- ・令和6年度より37,252人増／対前年比145%

◆増加の主な要因

- ・企画展入館者が好調
- ・茶室活用(ゲーム「モンスターハンター」シリーズに登場する太刀を再現した「狐刀カカルクモナキ」の展示、四代田辺竹雲齋展)
- ・大仙公園のガス気球運行による相乗効果

○資料 2 令和 7 年度の主な取組状況

- ・今回の協議会では主要な内容について報告し、詳細及び未完了の事業については、来年度第 1 回協議会で報告

◆博物館管理事業

- ・堺市博物館において、施設、設備の修繕工事を実施
- ・特に大きな工事として昨年度より空調改修工事に着手、令和 7 年 11 月 4 日から令和 8 年 3 月末まで休館し、空調機器更新を実施
- ・みはら歴史博物館において、展示ケース LED 化工事、トイレのオストメイト用設備設置工事等を実施

◆展示事業

- ・堺市博物館で 3 件の企画展・特別展を実施
- ・さかい利晶の杜で 3 件の企画展を実施
- ・観覧者数は資料右欄に記載

◆資料収集保存事業

- ・資料整理事業は、大塚山古墳出土品基礎整理を実施
- ・保存修理事業は、千手観音像、与謝野晶子自筆歌掛軸の修理を実施

◆普及広報事業

- ・1 企画展関連の講演会・解説・ワークショップを実施
- ・2 学芸員サンデートーク：4/13～11/2 の毎週日曜日に全 30 回開催、参加者計 550 人
- ・3 学校団体受入：91 校 6,945 人が来館。昨年度比 4 校 123 人増
- ・4 体験学習会：11 件 17 回を実施、参加者は 1,082 人（回数・参加者数は前年と同程度の実績）
- ・5 さかいミュージアム・パス&スタンプラリー：参加施設は前年同様 12 館、入館者数合計は 13,001 人、前年より微減、猛暑による影響と推測
- ・6～8 中高生向け事業・大学生への博物館実習・中堅教員研修も継続実施
- ・9～11 フォーラム、市民講座、古文書講習会なども実施
- ・広報事業：5 月に公式 Instagram を開設、週 2～3 回の情報発信で広報を強化

- ・研究活動：「中世堺における歴史文化に関する学際的研究会」を5回開催。当初予定の3か年が終了、来年度は報告書を刊行予定

◆国際機関との連携事業

- ・無形文化遺産理解セミナー及びワークショップ：4件
- ・堺緞通の体験と実演：3件
- ・無形文化遺産パネル展示
- ・ふとん太鼓の紹介動画を制作、4月の再開館時に公開予定

(禰宜田会長)

- ・多様な事業が継続実施されている点を評価
- ・こどもの数が減っているにもかかわらず学校団体受入数が増加しているということで、事務局の努力として高く評価

議事 (1) 報告②休館中の活動について

○資料3 休館中の活動について

◆展示事業

- ・近世エリアの常設展示の展示替え
- 都市と農村の両視点から堺の近世史を再構成

- ・3月中に展示完成予定
- ・村田委員・岡田副会長の助言に感謝

◆資料収集保存事業

- ・館蔵資料データベースの更新を休館期間中に集中して実施
- ・休館中新たに4,182件追加予定、令和7年度末には8,848件登録の見込み
- ・登録方法の不統一を整理、項目の統一やマニュアル作成

◆普及広報事業

- ・例年冬季には小学校3年生の社会科のカリキュラムに合わせて昔の暮らしや道具をテーマとした展示を行っており、昨年度は市内の28校が来館した。

- ・休館期間中の本年度は、出前授業として生活道具・遊び道具を持参し体験学習を実施、37校から申込があった。

◆国際機関との連携事業

- ・パネル展「日本の無形文化遺産」をみはら歴史博物館、市内の商業施設2か所（アリオ鳳、イオンモール堺鉄砲町）、市役所エントランスホールへ巡回

（岡田副会長）

- ・館蔵資料データベースにおける件数の数え方について、古文書群1つごとに1件か、資料1点ごとに1件か。

（事務局）

- ・例えば古文書では、作成された目録での1行を1件としている。最近データベースへ登録したものでは、5点の資料が包紙でまとめられ一括されたものがあるが、それは5点一括という形で、データベースでは1件という数え方をしている。

（岡田副会長）

- ・古文書群の数え方の扱いについても、統一をしているということか。

（事務局）

- ・その点も含め、マニュアルによって統一を図っている。

（学芸係長）

- ・考古、美術、文献という資料の分野によってデータベースに入れる項目は変わってくる。その点を統一したり、分野ごとに変えたりという形を想定している。

（岡田副会長）

- ・時代や物によって数え方等が違ってくるのはわかるので、データベース作成をよろしく願いしたい。

（森委員）

- ・出前授業実施について感謝している。昨年度も校外学習で訪問して、今年度休館ということで心配していたが、出前授業に来ていただいて、こどもたちがすごく興味を持ってむかしの暮らしの学習をすることができた。

- ・来年度も出前授業実施を要望する。博物館に行くのは大変だけど、来てもらえるならありがたいという学校は結構多いのではないかと思う。そこから裾野が広がっていくということも考えられるのではないか。
- ・堺市の小学校のなかには、博物館から遠いために校外学習で訪問するのが難しい学校もあるので、その点も少しお考えいただけたらありがたい。

(推進係長)

- ・実際に出前授業で伺った学校で来年度の開催を要望されることもある。しかし、人員体制の問題もあり、来年度は通常通りご来館をお待ちする形に戻す予定で考えている。

(参事)

- ・ご来館いただく場合、展示室を見学してもらえるメリットもあるため、基本的にはご来館をお待ちするスタンスで考えている。
- ・今後もご要望、ご意見は承りたい。

(禰宜田会長)

- ・出前授業を継続するには館の体制が課題、何かアイデアがあれば検討するようにしてほしい。基本的には来館をお待ちするというスタンスかと思う。
- ・データベースについては、次回実際にできたものが見られるような形で報告していただくと、具体的な成果がわかると思うので、可能であれば検討してほしい。

議事 (2) 案件①堺市立みはら歴史博物館の常設展示について

<事務局説明>

(参事)

○みはら歴史博物館の設置目的

- ・美原区の区域における歴史、風土等に関する資料を収集し、保管し、展示して、市民の利用に供し、その教養の向上と文化の発展に寄与すること。

○みはら歴史博物館の沿革

- ・平成 15 (2003) 年に 美原町立みはら歴史博物館として開館、平成 17 年に 美原町が堺市と合併し、堺市立みはら歴史博物館に。
- ・令和 2 (2020) 年からは指定管理者制度を導入

○みはら歴史博物館の現状

- ・指定管理者制度の導入以降、学芸部門は堺市博物館の学芸員が担当
- ・指定管理者制度への移行に際し、平成 30 年以降特別展の開催を取りやめ、特別展示室のうち一室を閉鎖。現在は、河内鋳物師と黒姫山古墳の顕彰をテーマとした常設展示を公開

◆指定管理者の体制

- ・アクティオ株式会社と契約
- ・常勤職員は館長、副館長、学芸職員 1 名、事務職員 1 名 計 4 人
- ・その他アルバイト職員 計 6 人
- ・業務は、施設の管理・運営（ホール等施設の貸出も含む）、学芸部門に関する補助、歴史・文化事業の実施
- ・指定管理者が美原区内の市立小学校にバスの手配を行い、団体利用を促進する「バス事業」を実施、毎年 1、2 校が利用
- ・その他様々なイベントを企画（毎月第一土曜日開催の「美原朝市」、弥生文化博物館との連携事業、堺市博物館との連携事業も実施）

◆堺市博物館側の体制

- ・管理係、学芸係が事務分掌に従い実施
- ・管理係は施設管理を担当、学芸係は展示内容の管理、資料の管理、展示室・収蔵庫の環境管理を担当

○みはら歴史博物館の課題

- ・コロナ禍が終息した令和 4 年度以降、来館者数が伸び悩む。
- ・背景には交通アクセスや立地の問題を想定

◆議題：常設展示をより魅力的に展開する方法について

- ・2 つの方針を検討

①閉鎖中の特別展示室を常設展示室として活用し、美原区内の発掘調査に関する展示等で有効活用する。

②近隣の児童・生徒にも興味を持ってもらえるような常設展示を展開する。（例：ハンズ・オン展示や子ども向けの解説パネル・シートの設置等）

- ・予算については、このための特別な予算を準備しているわけではないが、学芸課の予算のなかで使えるものを利用していく。
- ・常設展示を中心にイベントや普及活動のあり方も含めて、ご教示いただきたい。

○みはら歴史博物館の常設展示について質疑

(中委員) ※欠席のため代読

- ・常設展示の中に例年、堺市博物館の企画展で実施している昔の暮らし、昔の遊びに関する展示内容を取り入れても良いのではないか。

(参事)

- ・現在も展示場入口付近に「ちょっと昔の道具」のコーナーを設けているが、特別展示室内でより内容を充実させた形で展示を行うことも検討する。

(禰宜田会長)

- ・色々なアイデアを出すのが今日の会議の責務、ご意見を願います。

(伊住委員)

- ・公共交通の不便さは仕方ない部分があるが、駐車場があって車で来られるというのは前向きに検討し得るポイント。
- ・子育て世代は車移動が中心で、車で来館しやすい環境はファミリー層に有利。キッズスペースや飲食可能な場所があると、家族で来やすくなる。
- ・車で来館する層を意識した情報提供やアピールがあれば、むしろ利用者増につながるのではないか。
- ・河内鋳物師や黒姫山古墳は歴史的価値が高いが、現代との間に歴史的空白があり、現在の生活とつながるイメージが持ちにくい。
- ・黒姫山古墳も河内鋳物師も、ファミリー層にとって内容がそれほどキャッチーではなく、フックが無い人が圧倒的に多い。来館してほしいターゲットをもう少し整理して、層ごとに適した施策を検討すべき。
- ・ファミリーに実際に来てもらいたいなら、何歳ぐらいまでの子どもを対象にするのか、キッズスペースやベビーカーを置くスペースはどうするのか。そうなると、館の動線の問題にもなってくる。改めて、この館が果たすべき役割から考えていくことが大事だと思う。

(禰宜田会長)

- ・アクセスの問題など、いくつかご提案をいただいたが、まず、特別展示室を利用した常設展示をどのように魅力的にするかという観点で、今回の見学を踏まえて、委員に引き続き意見を頂戴したい。

(村田委員)

- ・みはら歴史博物館の位置付けが大事だと思う。特に、地元住民を主な対象とするのか、外部からの来館者にも重点を置いた位置付けにするのかという点や、堺市博物館との関係も非常に重要である。
- ・また、現在の常設展示では近世以降の情報が不足しており、この地域の歴史の流れがつかみにくい。
- ・常設展示においては、美原地域の原始、古代から現代までを見渡せる通史的なわかりやすい展示をまず整えて、その上で黒姫山古墳や河内鋳物師など地域の特徴的内容を位置付ける構成が望ましい。

(禰宜田会長)

- ・確かに、現在の展示では通史的内容はパネルだけである。特別展示室に実物資料を配置する方法もあるのではないか。

(伊住委員)

- ・現在の常設展示は、入るといきなり河内鋳物師が始まる構成となっている。また、時代が前後するような部分もあるなど、動線に課題がある。
- ・展示の冒頭に地域の通史を示すプロローグ的な部分があれば、来館者は歴史の流れの中で各テーマの位置付けを理解しやすくなると思った。動線を少し工夫するだけでも、多少内容がクリアに伝わるのではないか。

(岡田副会長)

- ・美原町史は昭和 50 年頃の刊行で、その際は近世・近代まで町史が刊行されている。その際に調査された古文書は現在どのような状態なのか。目録は残されていると思うが。町史での近世文書調査に関して、どのくらい情報が残っているのか。

(事務局)

- ・美原町史編纂時には近世・近代の文献資料が悉皆的に調査され、みはら歴史博物館にコピーや目録として情報が残っている。ただし現物資料の多くは持ち主へ返却され、購入して残ったものはごく一部に限られており、現存する資料だけでは展示構成を組み立てるのは難しい。

(課長補佐)

- ・補足として、町史編纂に際しては、古文書等の実物はかつて借用していたが、事務書類等は、M・C みはらと堺市で分散して保存している。

(村田委員)

- ・町史編纂事業に際して撮影された画像の写真版についてはどうなっているのか。

(課長補佐)

- ・堺市でも一部保管している。

(禰宜田会長)

- ・近世関係の資料について他に何かあるか。

(岡田副会長)

- ・まずは町史編纂に関する資料の現状を確認してほしい。
- ・その上で、常設展示に近世、近代、現代につながる形で内容を補わなければ、展示が古代と中世だけで断絶しているように見えてしまうだろう。
- ・予算や人員の制約はあるにせよ、町史刊行時に調査した近世資料の現状について確認することは必要と感じる。展示の改善とは別事業になるのかもしれないが。

(禰宜田会長)

- ・確認作業としては大変になるのかもしれないが。美原区には古文書以外に美術資料等の資料もあるのだろうか。

(推進係長)

- ・地域の現代作家の作品をみはら歴史博物館のロビーで展示することはある。
- ・美原地域の寺社に伝来する美術資料としては、菅生神社所蔵の資料がよく知られている。

(國賀委員)

- ・現状の展示は、鋳物師や甲冑など価値は高いが、考古学に特別な関心がない人にとっては、もっと幅広い分野を見たいと思われるのではないかと感じた。
- ・地域内の寺社、個人コレクターの所蔵品などで展示できる資料があれば一番よいが、他の委員の意見にもあったように、時代的にも分野的にもバランスを取ることで、興味を持つ人が増えるのではないか。
- ・博物館は当面のことも大事だが、数十年後を見据えた中長期的な方向性を考える必要がある。堺市では(仮称)堺ミュージアムの検討が進んでいる以上、市全体の中でみはら歴史博物館をどう位置付けるか考えなくてはならない。新ミュージアムの構想が実現するまで当面の間はこのような方向で行く、ということもあるかとは思いますが、少し中長期的な視点で考えることが必要である。
- ・展示を考える上で、まずどの層を主要ターゲットにするのかを明確にする必要があるのではないか。滋賀の美術館でもファミリー層を意識して工夫した経験がある。

- ・みはら歴史博物館でもターゲットを設定して展示内容を考えるべきだろう。ファミリー層なら子どもが楽しめる仕掛けを、高齢層なら懐かしさを感じる展示が効果的ではないか。
- ・中長期的視点で堺市全体の博物館構想の中での位置付けも踏まえ、ターゲットを検討する必要がある。

(黒田委員)

- ・校外学習で美原区の学校が堺市博物館へ行くのは難しいため、そこをみはら歴史博物館でカバーするような展示があるとよい。
- ・展示内容は古代・中世中心なので、それ以外の時代も取り入れたらどうか。
- ・広國神社の蔵王権現像等、地域の文化財をパネル等で紹介してはどうか。

(禰宜田会長)

- ・堺市全体の中で美原をどう位置付けるのかということが重要だと感じる。

(佐藤委員)

- ・展示を見た時、ここは通史を示す場ではなく、黒姫山古墳と河内鋳物師に特化した博物館なのではないかと思った。
- ・先ほどから全体的な位置付けの話が出ているが、沿革を見ていると、古墳を契機に博物館事業が始まったとあり、元々通史的役割を想定していなかった館なのではないかと感じた。市としてこの館を美原区の歴史を見渡すようなミュージアムにしたいのか、それとも古墳や鋳造に特化したタイプの館として位置付けるのか、改めて検討する必要がある。
- ・現状の「昔の暮らし」の展示については、観覧者として来館したら、後から追加したのではないかと思うと思った。小学校や地域のニーズがあるために後から追加したコーナーという印象を受けた。
- ・情報の出し方に検討の余地が非常にあるように思った。パネルを変えるだけでも大きく変わるのではないか。
- ・例えば常設展示の部屋に入って最初に目に入るのが「中期」という言葉で、何を示しているのかわかりにくく、その後のパネルも個別説明に突然入るため意図が伝わりにくい。
- ・現状の展示では何を伝えたくてこの資料を出しているのかが非常にわかりづらい。展示の意図が伝わる構成に変えるだけでも理解は大きく向上するはず。
- ・かつて他館の展示場で行った来館者の行動の調査では、女性は長い文章のパネルに立ち止まりにくい傾向があった。読むのは中高年以上の男性のみ。しかし、一瞬で目に入る短いフレーズ

やタイトルは来館者に理解してもらいやすい。現状では一瞬で内容がわかるパネル表示がほぼないので、もったいないことをしていると思う。

- ・予算に限りがあるなら、まずは展示パネルの再検討が最も効果的かと思う。
- ・展示を見てもらうことで来館者数を増やすという手法には限界があるのではないか。地域住民の来館を増やす方法として、展示に頼るのではない形が提案できるのではないかと考えている。
- ・地元の人が通う仕組みを作らないといけない。通う仕組みというのは展示を見るということではなく、活動するというのではないか。カフェテリアやエントランスという広い部分があるため、地域住民による民具調査やその成果のエントランスでの展示などを検討したらどうか。昔の暮らしと連動させて民具の整理や調査活動を地域の人に行ってもらい、その活動への参加を入館として捉える。
- ・市民に触ってもらえる資料を用いて市民が展示を作るなど、市民活動の場としてミュージアムを位置付ければ新しい未来があるのではないか。
- ・堺市全体の博物館の中でどう位置付けるかと考えたときに、地域に特化したものを見せるビジターセンター的役割を発揮してもらおうということと、活動体としての新しい試み、黒姫山古墳の横で、堺市博物館とは毛色が違う地元密着型の活動が結構有効な方法かと思う。

(禰宜田会長)

- ・多岐にわたる重要なご指摘があったかと思う。予定していた時間を少し延長してもよろしいか。特に子どもたちに対して魅力的な展示ということで、ご意見がございましたらお願いしたい。

(飯田委員)

- ・皆様のご意見をお聞きしていて、やはりターゲットをどこに置くのが大事かと思う。子どもといっても、現在校外学習で受け入れている例をみても、幼稚園から小学校、高校までと幅広い層が来館している。しっかりとターゲットを決めてやっていくことが大事かと思う。
- ・触って体験することは子どもにとって大事なことで、内容はこれまで実施しているようなことになると思うが、そのなかで年齢を意識することが重要かと思う。
- ・M・CのCはコミュニティということで、地域の歴史に関心のある人がコミュニティの場として集まり、グループ活動ができる場としての活用を考えてはどうか。

(森委員)

- ・表2②校外学習利用をみると、来館数が減っているのが残念である。
- ・近隣の学校は、小学校の社会科で古墳時代を学習するタイミングで来館してもらえるように工夫したらよいのではないか。

- ・神戸市の小学校では、垂水区の五色塚古墳へ上がって円筒埴輪を見て学習し、五色塚古墳へ行けない学校は神戸市立博物館へ行く。美原区には博物館と古墳の両方がそろっているので、これらを周遊すれば子どもにとってとてもよい学習になるのではないか。
- ・小学校への周知の手段としては、区の校長会でアナウンスするのもよいのではないか。どんどん小学校向けに発信したらよいと思う。

(禰宜田会長)

- ・学校との接点をつくるという重要な課題についての提案であるかと思う。

(岡田副会長)

- ・みはら歴史博物館が堺市全体の中でどのような位置付けなのかという観点から、美原区の歴史に特化するのかということなど、方向性を決めていく必要がある。古墳と鋳物師に特化することに決めるのもよいのではと思う。
- ・ホール利用のために来館する人に対し、常設展示の一部でもいいので、美原がどのような歴史がある町なのか分かる展示があるべきだと思うが、博物館のテーマ自体は特化させてもよいかと思う。
- ・河内鋳物師の内容を知りたいければみはら歴史博物館に、鉄砲の内容を知りたいければ鉄砲鍛冶屋敷というように、堺市全体で博物館施設のテーマを決めるべきと考える。
- ・町史編纂時に調査した古文書の現状については、放っておくと失われる一方であるから、気がかりである。
- ・子どもたちはやはり体験やパズルが好きだと思うので、体験工房は小学校の学習と関連をもたせて活用するべきだと思う。

(村田委員)

- ・この館に限った話ではないが、博物館が魅力的な展示をして誘客を考えた時に、博物館だけが頑張っても仕方ないのではないかと思う。これまでも意見で出ていたが、小学校との連携、また中学校や高校にも意識を向けていくべきだと思う。
- ・学校以外では、図書館との連携も考えるべきではないか。博物館単独でやるというよりは他の施設と一緒にやっていくということが、博物館にとっても他の施設にとっても活動を充実させることにつながると思う。
- ・また、これもこの館に限った話ではないが、展示というのは、基礎部分が充実してできあがるのではないかと思う。
- ・河内鋳物師や黒姫山古墳については基礎的な蓄積があって、それに基づいて充実した展示ができるのだと思う。一方で近世等の分野については、町史編纂事業の後は調査が途切れていて、町史編纂事業の成果が引き継がれていないと感じる。

- ・近世や近代について、基礎的な部分が欠如した状態で急に展示を充実するのは無理な話だと思う。すぐにできることではなく、時間が必要だが、必ずそれはしなくてはならない。博物館のためというよりは、地域の歴史を明らかにしていくという観点から、日頃の資料収集や調査が非常に重要であると思う。
- ・博物館は地域の歴史に関する中核施設であり、地域の方から古文書が持ち込まれた際に受け入れやアドバイスができるような体制が必要である。そういった基礎部分の充実を図ることが非常に重要ではないかと思った。

(佐藤委員)

- ・村田委員の指摘を聞いて、問題の本質は専門性にあるのではないかと思った。研究に関する部分は堺市博物館から学芸員が来て対応するのかと想像していたが、私が提案した、地域住民が調査や展示に参加する活動体としてのミュージアムをめざすなら、指定管理者の側に民具や近世史、民俗学などに詳しい専門人材がいないと対応に行き詰まるのではないか。
- ・指定管理者制度を導入しているから無理ということではなく、指定管理者でも専門性を持つ学芸員を採用している例は多い。
- ・地域の人が「まず相談しよう」と思える存在を館内に置くことが重要ではないか。
- ・学校による利用という観点では、ハンズ・オン展示を増やせば、増えるのは幼児や小学校低学年だろう。民具を展示すると、「昔の暮らし」のカリキュラムで来てくれる学年が増える。
- ・幼稚園に行く前のこどもが来てくれるような場所を用意すれば、歴史のコンテンツを扱った親子の居場所になる可能性がある。
- ・現状の展示場では、安全面に配慮した専用の体験スペースを新設する必要があり、コストがかかると感じた。
- ・現状最も効果的なのは、美原区の小学校6校への積極的なアプローチであろう。校長会や社会科部会に働きかけ、毎年全校に来館してもらえる体制をつくることではないかと思う。
- ・中高生に対しては、クラブ活動や総合的な学習での利用に加えて、歴史が好きな生徒が活動する場所として館を開放するのもよいのではないかと思う。
- ・近年、高校において「探究学習」が取り上げられるようになっており、「探究学習」ができる場を学校は探しているだろう。
- ・大学入試で総合選抜が増え、研究発表や活動実績が評価される現在、高校生は、「探究学習」のための実績を作りたいという気持ちが強い。
- ・ミュージアムが研究や発表の場を提供できれば、これまであまり試みられていない興味深い取組となり、高校生のニーズに応えられるはずだ。

- ・以上のとおり、高校生に来てもらう方法としては、クラブ活動や総合的な学習などでの地元校の受け入れと「探究学習」の支援という2本柱が考えられるのではないかと。

(禰宜田会長)

- ・多くの意見が出たが、事務局からコメントをお願いする。

(中委員) ※欠席のため代読

- ・展示のみで子どもを呼び込むことは難しいため、子どもたちが参加できる交流型イベントを開催しながら、資料価値の高さにとどまらず、身近な生活や遊びの歴史を伝える展示があれば良いのではないかと考える。
- ・すでに堺市博物館で人気のある企画を、みはら歴史博物館において開催することも検討できるのではないかと。相乗効果が生まれることが望ましい。

(参事)

- ・多くのご意見をいただきありがとうございます。
- ・美原町時代のみはら歴史博物館は、河内鋳物師と黒姫山古墳という美原町が誇る2つの歴史遺産を町民や外部に対して伝えるという目的がかなり強かったと聞いている。
- ・堺市への合併以降も当初の目的は変えないままで、常設展示を続けてきた。
- ・入館者増に向け常設展示室の改善を考えるなかで、当初の目的を今後も引き継いでいくのか、それとも幅広い美原区の通史を取り上げるのか、再度、検討する。
- ・特別展示室の使い方やパネルの文章等、検討を深める。

(禰宜田会長)

まだ他にご意見等ございましたら直接事務局へ伝えるように。

<事務局説明>

議事(3) その他

○(仮称)堺ミュージアムについて報告

- ・(仮称)堺ミュージアムについて、現状の進捗を報告する。令和7年度中の策定を目標に検討を進めてきた基本構想(案)は、すでに内容がほぼまとまっている。今後は2月議会で構想(案)が議論され、3月末頃からパブリックコメントを実施する予定である。4月以降、その結果を踏まえて、予定では令和8年6月頃に「(仮称)堺ミュージアム基本構想」として公表する流れとなっている。

- ・基本構想（案）策定にあたり、学識経験者等による懇話会を4回開催しており、本協議会からは國賀委員にご参加いただいている。懇話会で頂戴した多様な意見を踏まえ、現在、内容の最終整理を行っている。
- ・基本構想（案）の詳細については、近日中に改めて報告を行う予定である。

○資料5 令和8年度 堺市博物館企画展スケジュール（案）

- ・来年度の事業予定について報告する。来年度の企画展は市議会での予算議決後に正式に準備に入る予定であるが、学芸員による調査研究等の準備はすでに進行中である。
- ・来年度企画展の予定は資料5のとおりである。
- ・来年度企画展については、議会での予算議決後に正式に広報を進める。
- ・現在、堺市博物館は空調工事のため3月末まで休館中であるが、4月1日より再開館する。再開館に合わせ、4月1日～5日に「博物館 再始動－サンクス・イベント－」を実施する。リニューアルした常設展示（近世エリア）の展示解説や、企画展「昭和の記憶」の展示解説、児童・生徒向けのワークショップも準備中である。

【閉会】

（禰宜田会長）

- ・会議時間を延長してしまったが、委員の皆様には様々な意見を出してもらうことができた。
- ・事務局は今回会議で出た意見の検討を進めてもらいたい。

（館長）

<閉会挨拶>

- ・今日は長時間にわたり、みはら歴史博物館の活性化や今後の展望について多くの意見をいただき感謝している。
- ・皆様にいただいたクリエイティブな意見をいかに実現していくかが重要。
- ・休館中、スタッフは新しいことに挑戦して、自分たちが動けば人は理解してくれる、館に来てくれるという実感も得られた。
- ・今日いただいた温かい励ましやアイデアに改めて感謝し、これからも頑張っていく。